

# 指導主事訪問（理科，英語）

令和元年12月11日（水）

秋田県教育庁南教育事務所 指導主事

伊藤 文子先生

秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所 指導主事

佐藤 央章先生 をお迎えして



時間帯	内容	担当教員		場所
13:35～14:25	1年B組「理科」 研究授業	授業者	栗山 琢也	理科室
	2年A組「英語」 研究授業	授業者	井合 潤子 ルーク・ヘミング	3G教室
15:00～16:00	研究協議「理科」	校長，澁江，佐藤は，齋藤 佐藤雄，佐藤智，竹村，加藤		コンピュータ室
	研究協議「英語」	教頭，菊池，高橋，佐藤雅 新田，山内，田中，小松		ミーティング ルーム





# 研究協議会について

令和元年12月11日(水)

15:00~16:00

【理 科】 コンピュータルーム 司会：加藤 記録：佐藤智

・研究協議次第

- 1 指導者紹介
- 2 研究協議
  - (1) 授業者から 5分
  - (2) 授業についての協議 35分
  - (3) 指導助言 20分

・授業参観・研究協議の視点

- 1 問題を見だし見通しをもって観察，実験を行い，知識及び技能を活用しながら，課題を解決している姿が見られたか。
- 2 その手立てや「学び合い」は効果的であったか。

・指導者 佐藤 央章 指導主事

・参加者

授業者 栗山 琢也

校長，澁江，佐藤は，齋藤，佐藤雄，佐藤智，竹村，加藤

【英 語】 ミーティングルーム 司会：菊池 記録：高橋

・研究協議次第

- 1 指導者紹介
- 2 研究協議
  - (1) 授業者から 5分
  - (2) 授業についての協議 35分
  - (3) 指導助言 20分

・授業参観・研究協議の視点

- 1 既習の語句や表現を正しく活用して，相手意識をもって秋田や自分の住んでいる地域の特色などについて表現する姿が見られたか。
- 2 その手立てや「学び合い」は効果的であったか。

・指導者 伊藤 文子 指導主事

・参加者

授業者 井合 潤子，ルーク・ヘミング

教頭，菊池，高橋，佐藤雅，新田，山内，田中，小松

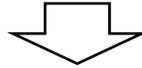
# 第1学年B組 理科学習指導案

場 所：理科室  
指導者：栗山 琢也

## 1 単元名 光の世界

## 2 生徒に働かせたい「見方・考え方」と目指す生徒の姿

光の現象を関係的な視点で捉えることに着目し、身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら理解したり、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、結果を分析して解釈することで、その規則性や関係性を見いだして表現したりすること。

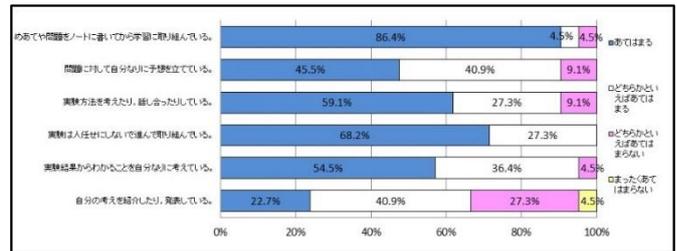


光の現象について疑問をもち、見通しをもって観察、実験を行い、知識及び技能を活用しながら、課題を解決している姿。

## 3 生徒と単元

### (1) 生徒について

7月に実施したアンケートでは、理科の授業を「好き」、「どちらかといえば好き」と答えた生徒の割合を合わせた結果が、66.7%であった。好きな理由に「おもしろい」、「考えるのが楽しい」と答えた生徒が多く、その他に「社会に出たとき、役に立つ」ことを挙げている。また、授業での取組については、観察や実験の方法を自分で考えて行うことに楽しさを感じているが、自分の考えを紹介したり、発表したりすることをあまり好んでいない。光については、日常経験や小学校3年生での学習から、光が鏡で反射したり、虫めがねで集まったりすることや、明るくなったり温かくなったりすることを体験している。しかし、事前のアンケートから小学校での学習を覚えている生徒が少ないことが分かった。



### (2) 単元について

本単元では、光の反射や屈折、凸レンズの働きに関して課題を明確にして実験を行い、結果を分析・解釈し、その規則性を見いだし、日常生活や社会と関連付けて理解させることが主なねらいである。そこで、光の反射や屈折では、光の進み方に関する身近な現象と関連させながら実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見いだしさせることが重点となる。また、凸レンズの働きでは、物体と凸レンズとの距離を変え、実像や虚像ができる条件を調べさせ、像の位置や大きさ、像の向きについての関係性を定性的に見いだしさせることが重点となる。これら規則性や関係性が光ファイバーや眼鏡、カメラなどに応用されていることに触れながら、日常生活や社会とのつながりを実感できる単元である。

### (3) 指導について

生徒は光によって起こる現象について日常経験や小学校での観察や実験を通して実感していることが多い。しかし、その現象がどのようなしくみで起こるのかを説明できるまでは至っていない。ここでは、光の現象に関する観察・実験を行い、結果を分析して解釈することにより、光の反射や屈折の規則性、凸レンズにおける物体の位置と像の位置及び像の大きさの関係など、光や凸レンズについて定性的に見いだしせるようにする。また、このことを基にし、日常生活に見られる様々な光の現象を説明できるようにさせたい。授業においては、科学的な思考力・表現力、科学的な見方や考え方の育成を図るため、探究的な学習活動を取り入れた授業展開にしていく。特に導入段階では、事象提示を工夫し、現象に対する生徒の興味・関心を高めるとともに、疑問から課題を設定し、予想を基に見通しをもった観察・実験を行えるようにする。

4 本時の展開 ( 3 / 8 )

(1) 本時のねらい

鏡に当たってはね返る光の角度に着目して実験を行い、その結果から光の反射の法則を見だし、説明することができる。

(2) 展開

主な学習活動	形態	◇教師の支援 ●つまずきの見られる生徒への手立て 評価規準と方法【観点】[方法]
1 人や物体は、鏡にどのように映っているのか確認する。	全体	◇ 鏡を使ってどのように映っているか確認し、なぜ映って見えるときと見えないときがあるのか考えさせ、問題を見いださせる。
2 問題を見だし、課題を把握する。	全体	◇ 本時の学習課題を確認するとともに、授業の流れを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                         学習課題 光は鏡に当たると、どのようにはね返るのか？                     </div>		
3 物体が鏡のどの位置に映るのかを調べ、光のはね返り方を予想する。 <input type="checkbox"/> 同じ角度ではね返る。 <input type="checkbox"/> 直角 (90度) ではね返る。	グループ ↓ 個 ↓ 全体	◇ 鏡に当たって跳ね返る光の道筋を作図させることで、どのようなきまりがあるか考えさせる。 ● 予想できない生徒には、見る人、物体、印の位置関係を参考にして、予想できるようにする。 ◇ 見通しをもって実験を行わせるため、鏡にはね返る前後の光の道筋のできる角度に着目させる。
4 鏡に当たった光の進む道筋を調べ、記録する。	グループ ↓ 個	◇ 光源装置から出た光が鏡に反射してのた物体に当たるようにして、光の道筋を記録するように助言する。 ◇ できるだけ多くの実験結果を得られるように、光源の位置を変えて実験を行わせ、それぞれの光の道筋を記録させる。 ● 記録用紙に光の道筋を正確に記録できない生徒には、光源装置、光の当たった点、的の位置を確認させ、その3点を線で結ぶように助言し、正確に記録できるようにする。
5 鏡に当たった光の進む道筋について、考察する。 <input type="checkbox"/> どの光の道筋も同じ角度になっている。 <input type="checkbox"/> 直角 (90度) ではね返るわけではない。	個 ↓ グループ ↓ 全体	◇ 自分の考えを付箋に書かせ、それを基にグループで話し合わせることで、鏡に当たった光がどのようなきまりではね返るのか確認させる。 <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px; text-align: center;">                         鏡に当たってはね返る光の道筋を調べる実験の結果から光の反射の法則を見だし、説明している。  <b>【知①】</b> [発表, ノートの記述の分析]                     </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                         まとめ 光は鏡に当たると、同じ角度ではね返る。                     </div>		
6 確認問題 (作図) に取り組む。	個	◇ 光の反射の法則を生かして作図できない生徒には、どの角度とどの角度を同じにするとよいのか助言することで、作図できるようにする。
7 本時の振り返りをする。	個	◇ 授業で分かったことや新たな疑問、今後に活用できそうなことを記述するように助言する。

5 単元の目標と指導計画及び評価の計画、評価規準

(1) 単元の目標 (育成を目指す資質・能力)

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
<p><b>知①</b> 日常生活と社会との関連付けながら, 光が水やガラスなどの物質の境界面で反射, 屈折するときの幾何光学的な規則性を理解することができる。</p> <p><b>知②</b> 物体と凸レンズの距離を変え, 実像や虚像ができる条件を調べ, 像の位置や大きさ, 像の向きについての規則性を定性的に理解することができる。</p>	<p><b>思</b> 光の反射や屈折, 凸レンズの働きに関して問題を見つけ, 見通しをもって実験を行い, その結果を分析して解釈し, 規則性や関係性を見いだして表現することができる。</p>	<p><b>学</b> 身近な光の現象から問題を見だし, 見通しをもって粘り強く観察, 実験に取り組み, 主体的に課題を解決しようとする。</p>

(2) 単元の指導計画及び評価の計画 (8時間)

時数	○ 主な学習活動	◇ 教師の支援 [資質・能力]	主な評価規準【観点】[方法]
1	○ 日常生活や社会の中にある光の現象について話し合う。	◇ 日常生活や社会の中にある様々な光の現象を提示することで, 光の現象への疑問をもたせる。[学]	・ 光の反射や屈折にかかわる現象を日常生活や社会と関連付けて積極的に考えようとしている。 【主】[発表, 振り返り]
2	○ 光の進み方やものの見え方について理解する。	◇ 物体を見ることができるのは, 光のどのような性質によるのかを考えさせながら, 光の進み方やものの見え方について理解させる。[知①]	・ 光が直進することや物体が見えるときには光源からの光や反射した光が目に入っていることを理解している。 【知①】[発表, ノートの記述の分析]
3 本時	○ 光の反射についての実験を行い, その結果から光の反射のしかたを考える。	◇ 鏡にはね返る前後の光の道筋でできる角度に着目させ, 光の反射の法則を見いだすことができるようにする。[思]	・ 鏡に当たってはね返る光の道筋を調べる実験の結果から光の反射の法則を見だし, 説明している。 【思】[発表, ノートの記述の分析]
4	○ 透明な物体に出入りする光の実験を行う。	○ 入射角と屈折角の大きさに着目させ, 半円形レンズの境界面に様々な角度から光を当てる実験の結果から, 規則性や全反射を見いだすことができるようにする。[思]	・ 光の屈折による入射角と屈折角の大きさや全反射の規則性を見だし, 説明している。 【思】[発表, ノートの記述の分析]
5	○ 光の屈折や全反射と, 日常生活や社会との関わりについて考える。	○ お椀に入ったコインが水を入れると浮かび上がって見える現象や光ファイバーを提示して, 日常生活や社会との関わりについて考えさせる。[学]	・ 光が屈折や全反射によって起こる現象について, 日常生活や社会と関連付けながら考えている 【主】[発表, ノートの記述の分析, 振り返り]
6	○ 凸レンズを通る光の道筋や焦点, 焦点距離など, その性質について理解する。	○ 凸レンズに平行光線を当て, 光を1点に集める実験を行わせることで, 焦点や焦点距離を理解させる。[知②]	・ 凸レンズを通る光の道筋から, 焦点と焦点距離について説明している。 【知②】[発表, ノートの記述の分析]
7	○ 凸レンズによってできる像についての実験を行い, 物体の位置と像の位置及び像の大きさの関係を調べる。	○ 凸レンズに対する物体, スクリーンの位置に着目させ, スクリーンに実像を結ぶ実験の結果から, 凸レンズにおける物体の位置と像の位置及び像の大きさの関係を見いだすことができるようにする [思]	・ 凸レンズにおける物体の位置と像の位置及び像の大きさの関係を見だし, 説明している。 【思】[発表, ノートの記述の分析]
8	○ 作図によって, 凸レンズによってできる像をかき表す。	○ 凸レンズによってできる像を作図によって求め, 実験結果との比較から物体の位置と像の位置及び像の大きさの関係を深めさせる。[知②]	・ 凸レンズによってできる実像や虚像の大きさや向きを, 作図によって正確に表している。 【知②】[発表, ノートの記述の分析]

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知①</b> 日常生活と社会との関連付けながら, 光が水やガラスなどの物質の境界面で反射, 屈折するときの幾何光学的な規則性を理解している。</p> <p><b>知②</b> 物体と凸レンズの距離を変え, 実像や虚像ができる条件を調べ, 像の位置や大きさ, 像の向きについての規則性を定性的に理解している。</p>	<p><b>思</b> 光の反射や屈折, 凸レンズの働きに関して課題を見だし見通しをもって実験を行い, その結果を分析して解釈し, 規則性や関係性を見いだして表現している。</p>	<p><b>主</b> 身近な光の現象から問題を見だし, 見通しをもって粘り強く観察, 実験に取り組み, 主体的に課題を解決しようとしている。</p>

## 第2学年A組 英語科学習指導案

場 所：英語教室  
指導者：井合 潤子  
ルーク・ヘミング

### 1 単元名 Unit 6 Rakugo in English

### 2 生徒に働かせたい「見方・考え方」と目指す生徒の姿

相手に自分の伝えたい内容を正しく伝えることに着目し、必要な語句や表現を選択し、それらを適切に用いて表現すること。



既習の語句や表現を正しく活用して、相手意識をもって日本の伝統文化や自分の住んでいる地域の特色などについて表現し、伝え合う姿

### 3 生徒と単元

#### (1) 生徒について

11月に行ったアンケートでは、「書くこと」という項目において、「好き」「どちらかと言えば好き」と答えた生徒が60%であった。また、「得意だ」「どちらかと言えば得意だ」と答えた生徒が42%であった。その中に書くことが好きだが書くことが不得意と答えた生徒が25%おり、英文を書くことに意欲はあるものの、語句や表現を適切に用いて英文を書くことに苦手意識をもっている生徒がいることが分かった。

授業では、1年時から各基本文型のまとめとして、自分自身や身近な人物、関心のある事柄などについて1～2文の簡単な英語で書き表す活動を継続して行ってきた。しかし、生徒の多くは、まず日本語で考え、それをそのまま英文で表そうとするため、不自然な語順で書いたり、適切でない語句を選択したりして自分の言いたいことを英文で正確に伝えられない傾向にある。そのため、英語と日本語の文構造の違いを意識させたり、できるかぎり既習の語句に置き換えたりして英文を書くように支援している。

身近な事柄について書くことに関しては、1年時に can や can't の文型を使って外国人観光客に刈和野の大綱引きについて説明する活動や、ALT に be 動詞＋形容詞を用いて秋田の祭りや特産物、観光名所などについて紹介する活動を行った。また、先日は授業に国際教養大学の留学生5人を迎え、留学生の出身国についてのプレゼンテーションを聞いたり、相手に質問したりする交流を行った。交流後のアンケートでは、「今度は自分たちの国について外国人に紹介したい」という記述が多くみられた。

#### (2) 単元について

本単元は、学習指導要領の指導内容の「カ 書くこと」の(ウ)「日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動」にあたる。日本の伝統的な文化である「落語」を取り上げ、その特徴や魅力を伝える題材である。英語落語を公演している落語家が、外国人が理解しやすいように外国の文化を話の中に上手に取り入れて筋書きを一部変更し、海外に落語の魅力を伝えるというエピソードとなっている。これまでの「伝統文化としての落語」という側面だけでなく、世界に発信する伝統文化としての「進化する落語」という新しいとらえ方を通して生徒の興味・関心を喚起し、伝統文化の理解につながられる題材となっている。

基本文型は There is / There are の肯定文と疑問文、目的語と主語の働きをする動名詞が扱われている。これらの表現は秋田や西仙北地域の特色や観光名所、特産物などについて説明するために有効であることから、次の単元の「Presentation2 町紹介」につなげ、さらに発展的な内容の言語活動の展開が期待される。

#### (3) 指導について

前述の通り、生徒たちは留学生との国際交流の機会を通して、外国の文化にふれ、今度は自分たちが外国人に日本について紹介したいという願いをもっている。来年の2月に韓国から5人の学生が本校を訪れる予定であるため、「外国人に秋田を紹介する」というテーマ設定は、生徒にとってやってみたい、伝えたいという必要感のある学習活動になると考える。本時では、まず韓国の学生に自分が伝えたいことを個人で考えさせる。次にグループで紹介するカテゴリーを決め、それを表現するために意見交換しながら、Unit 6 を中心とした既習の語句や表現から適切な表現を選択させる。その際、生徒の「見方・考え方」を働かせるために、参考となる表現の提示などはせず、伝える相手に応じて既習事項を主体的に活用させたい。また、英文を書くときには、中間発表などを通してどうすればよりよい表現になるかを考えたり、他のグループのよい表現を共有したり、ALT の助言を受けたりすることで、自分たちの英語表現が適切なものであるかを見直し、聞き手を意識した自然な流れのまとまりのある文章となるようにしたい。

4 本時の展開 (10/ 11)

(1) 本時のねらい

既習の語句や表現を適切に使って、秋田について紹介することができる。

(2) 展開

主な学習活動		形態	◇教師の支援 ●つまずきの見られる生徒への手立て 評価規準と方法【観点】[方法]	
			JTE	ALT
1	Greeting and warm up 既習の表現を使って身近な事柄について、ペアの相手に説明する。	ペア	●うまくヒントが出せない生徒には、参考となるキーワードを与えることで正解に導く。	◇生徒が英語で説明しやすいように分かりやすく簡単なトピックを提示する。
2	Activity and goal 今日の活動とめあてを確認する。	全体	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     Today's activity 韓国の学生に秋田について紹介しよう。                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     Today's goal 学んだ語句や表現を適切に使って伝えたいことを表現できる。                 </div>	
3 (1)	Individual writing 伝えたい内容についてのキーワードを書く。 <input type="checkbox"/> fireworks, tug of war, Akita dog...	個	●伝えたいことがイメージできない生徒には、秋田の有名なものについてのヒントを与え、イメージできるようにする。	
(2)	Groups' writing グループで伝えたいことを決め、紹介文を作る。 <input type="checkbox"/> ~と言うにはどう表現するのか。	グループ	◇Unit 6 の文型が紹介文を作るために有効な表現であることに気付かせる。 ◇文の構成や表現について助言する。	
(3)	Presentation①中間発表 <input type="checkbox"/> この表現は参考になりそうだ。 <input type="checkbox"/> よりよい表現にするにはどうするのか。 <input type="checkbox"/> ~と言いたいときはどの表現がいいのかな。	全体	◇よい表現を取り上げ、生徒の表現の幅を広げる。 ◇有効な表現を引き出すために、グループでうまく表現できない部分を取り上げ、全体で共有する。	◇より自然で適切な表現になるように助言する。
4	Sentence reconstruction 中間発表を参考に、内容表現を見直す。 <input type="checkbox"/> もっと分かりやすい表現はないかな。 <input type="checkbox"/> There is a famous festival in Kariwano. It is Kariwano Tug of War. We enjoy pulling the rope at the festival. Pulling the rope is exciting.	グループ	◇生徒が自分で考え、改善できるよう、板書は最小限にとどめる。	◇より自然な英語表現にするために、必要に応じて助言する。
5	Presentation ② グループごとに発表する。 ALT の質問に答える。	全体	●うまく答えられない生徒に具体的なキーワードを与えることで、答えられるようにする。	◇韓国人の学生役として、発表したグループに質問する。
6	Writing 自分が最も紹介したいことを英文で書く。  Reflection ふりかえり 自己評価カードに記入する。	個	◇今日の活動でできたこと、できなかったこと、次に生かしたいことなどについて考えるよう助言する。	◇生徒の活動の中で良かった点を具体的に挙げて、称揚する。
既習の語句や表現を適切に使って、秋田について紹介している。 <b>【思】</b> [ワークシート・観察]				

5 単元の目標と指導計画および評価の計画

(1) 単元の目標 (育成を目指す資質・能力)

知識および技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
<p>【知】①There is /are～. や動名詞の形, 意味, 用法を正しく理解する。</p> <p>【知】②There is /are～. の文型を使って家の周りがあるものについて説明したり, 動名詞を使って身近な事柄について考えを述べたりすることができる。</p>	<p>【思】落語について説明された英文や代表的な英語落語の話を読み, 必要な情報や概要, 要点をとらえることができる。また, 秋田について紹介するために必要な英語表現を選択し, それを適切に活用して自分の考えを表現することができる。</p>	<p>【学】秋田の紹介や身近な事柄, 自分の考えなどが相手に正確に伝わるように, 既習の表現を用いて伝え合う活動に粘り強く取り組み, 主体的にコミュニケーションを図ろうとする。</p>

(2) 単元の指導計画および評価の計画 (11時間)

時数	主な学習活動	教師の支援 [資質・能力]	主な評価規準【観点】[方法]
1	○There is / are の文型を用いて自宅の近くにあるものについて話したり書いたりする。	◇西仙北地区の主な施設や名所についてキーワードや写真を使って提示し, 自宅の近くにあるものをイメージさせる。【知①】	・There is [are] ～. の肯定文の形・意味・用法を正しく理解し, 活用している。【知①】 [ワークシート]
2	○英語落語の公演ポスターを読んで, 日時・場所や, 掲載写真について描写する英文の内容を理解する。	◇落語の舞台の写真を提示し, 落語の特徴をとらえさせる。【思】	・公演ポスターの内容を読み, 概要をとらえている。【思】 [ワークシート]
3	○落語についての説明を読んで概要をつかむ。	◇落語の特徴についてさせるために, 扇子と手ぬぐいのこけで様々な動作が表現できることに気付かせる。【思】	・落語についての説明を読み, 概要をとらえている。【思】 [ワークシート]
4	○自宅の近くにあるものについてたずねたり, 質問に答えたりする。	◇ALT と JTE のやりとりを聞いて疑問文の用法を理解させる。【知①】	・There is [are] ～. の疑問文と否定文の形・意味・用法を正しく理解し, 活用している。【知①】 [ワークシート]
5	○自分の好きなことや楽しんでいることなどについて動名詞を用いて話したり書いたりする。	◇ALT と JTE のやりとりを通して動名詞の用法を理解させる。【知①】	・動名詞 (目的語) の形・意味・用法を正しく理解し, 活用している。【知①】 [ワークシート・活動の観察]
6	○英語落語の公演パンフレットを読んで, 概要をつかむ。	◇英語落語家が公演している様子を動画や写真で示し, イメージを想起させる。【思】	・落語の公演パンフレットを読んで, 概要を把握している。【思】 [ワークシート]
7	○動名詞 (主語) の文型を用いて自分の考えを話したり, 書いたりする。	◇多様な表現を引き出すために interesting, exciting などの形容詞を提示する。【知②】	・動名詞 (主語) の形・意味・用法を正しく理解し, 活用している。【知②】 [ワークシート]
8	○英語落語の小話を読んで, 概要をつかむ。	◇英語と日本語の筋書きを比較させ, 日本とアメリカの文化の違いについて考えさせる。【思】	・英語落語の小話を読んで, 概要を把握している。【思】 [ワークシート]
9	○英語落語家へのインタビューを聞いて, 必要な情報を聞き取る。  ○部屋の様子についてペアのパートナーに口頭で説明する。	◇インタビューの内容が理解しやすいように必要に応じてキーワードを提示する。【思】  ◇部屋の配置図を簡単に書かせ, それを基にしてやりとりするよう助言する。【知②】	・英語落語家へのインタビューを聞き, 概要や要点を把握している。【思】 [ワークシート]  ・部屋に何があるかについて正確に口頭で伝えている。【知②】 [観察]
10 本時	○韓国から来る学生に秋田について紹介する。	◇紹介文の例を示し, Unit 6 の文型が紹介文を作るために有効な表現であることに気付かせる。【思】	・既習事項を適切に用いて秋田について紹介している。【思】 [ワークシート・活動の観察]

11	○前時の学習を参考にしながら、自分が最も紹介したい事柄についてお互いにやりとりする。	◇相互評価や生徒同士でアドバイスし合い、それを基にして聞き手に伝わる内容にするための工夫をさせる。 [学]	・聞き手に伝わるように声量、イントネーション、アイコンタクトなどに意識しながら秋田について紹介している。 [主] [評価シート・観察]
----	--	--	--

### (3) 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知①</b>There is /are～. や動名詞の形、意味、用法を正しく理解している。</p> <p><b>知②</b>There is /are～. の文型を使って家の周りにあるものについて説明したり、動名詞を使って身近なことからについての考えを述べたりしている。</p>	<p><b>思</b>落語について説明された英文や代表的な英語落語の話を読み、必要な情報や概要、要点をとらえている。また、秋田について紹介するために必要な英語表現を選択し、それを適切に活用して自分の考えを表現している。</p>	<p><b>主</b>秋田の紹介や、身近なことから、自分の考えなどが相手に正確に伝わるように、既習の表現を用いて伝え合う活動に粘り強く取り組み、主体的にコミュニケーションを図ろうとしている。</p>

# 校舎配置図

